

第3回 武蔵野市図書館運営委員会の主な内容

日 時 平成22年12月1日(水) 午後6時30分～8時15分
場 所 吉祥寺図書館 2階集会室
出席委員 糸賀 雅児 太田 早苗 桂 まに子 竹田 照子 船崎 尚
増澤 強 松山 巖 三輪 一雄 毛利 和弘

会議次第

- 1 開会
- 2 前回会議要録の確認

3 議事

- (1) 図書館基本計画進捗管理(案)について
- (2) 武蔵野市の図書館評価(案)について
- (3) 平成22年度評価シート(案)について

事務局から以下のとおり報告した。

評価シート案の前回からの変更点として、事業ごとの目標を10年間から5年間の目標を定め、進捗状況を管理する。取り組み結果を年度ごとに事務局でA～Cの3段階評価で記入し、翌年度の委員会で報告することを説明。平成22年度武蔵野市の図書館評価案については、前回まで「サービスシステム評価案」としていたものを表題に訂正したこと、26の施策単位に項目を設定したこと、単年度ごとの報告と5年間での目標と結果を合わせて総合的に評価し、委員会よりコメントをいただく事を予定している。

この2つの評価シートによって各年度の評価を積み上げ、アンケートなどから利用者の満足度を測り、図書館基本計画の見直しを行うこととした。

また今回新しく平成22年度事業評価シート案を提出した。これは特に図書館として重点をおいて実施していくものを取り上げ、人件費、事業費、業務量をここに挙げ、適正なサービスに繋がっているかを評価していただくシートである。(今回はブックスタート事業をサンプルとして挙げた)

委員長 今の事務局説明に対しご質問、提案についてのご意見をお願いします。

委員 進捗評価案の評価に「◎」「○」「△」とありますが、最終的な26年度までの目標に対しての現在の進捗状況を示すものですが、それとも単年度ごとの目標ができていれば「◎」が付くのですか。

事務局 5年後の目標に対してではなく、単年度ごとの事業に対して達成できているかの評価になっています。

委員 「△」のところのわかりにくい。単年度の目標がないところも「△」になっているところもいくつかあるので、他の「△」の意味と揃えて欲しい。

事務局 確かに事業の「検討」という言葉と、単年度ごとに設定している「検討」の関連

性がわかりづらいと思います。これについてはまた改めて整理した形で報告したいと思います。

いくつかの事業の中でも「検討」として設定されている事業と、実施まで計画されている事業と2つあるので、事務局としてもどのように取り組むかをわかりやすいようにしていきたい。

委員 それには単年度の目標もある程度掲げているほうがわかりやすいのではないでしょうか。

委員長 (3) というのは、例えば22年度にサービス対象者の検討までを行って、実施まで行うというものですか。

事務局 「/」というのに関しましては「検討」と「実施」が並行するという形ですが、利用困難者に対する配本サービスというものは現在既存のもので、行っているという点では実施と評価できます。計画の中では新たなサービスについても検討していこうという計画になっているので、検討も同時平衡ということで「/」で評価をお示ししています。

委員 最初のところに「△」とありますが、5年間の目標として「サービス窓口を開設する施設候補を決定する」となっています。そうすると26年度に△というのは不自然な気がします。評価をどの基点で行うのか、これを示して欲しい。

また、年度初めに評価を行うのではなく、年度末に評価を出すべきではないか。ゴールに「◎」がでてこないか、やらないのか、ということになる。年度のゴールと5年後のゴールとを見てやっていったほうがよい。そのほうがわかりやすい。それと取り組み結果のところですが、こちらは事業進捗評価案の取り組み結果というのは5年ごとですか。

事務局 こちらは平成22年度ということで単年度ごとです。

委員 単年度ごとは「武蔵野市の図書館評価案」のところにもありますよね。これと同じ内容のことを書いていくということですか。

事務局 はい。事業に関してのことで、ほぼ同じことが載ります。

委員 それでは取り組み結果の実績等のところに「年度末」などの但し書きがあったほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

事務局 1回目の委員会の中で、計画の5年間の中が見えないので示してほしいということで作りました。サービス目標のように単年度ごとの目標と5年ごとの目標のほうですっきりしていて表に当てはめやすいと思いますが、単年度ごとにどう進めていくかということが視覚的に必要ではとの各委員の御指摘もあり、単年度ごとにわかるようにしたのがこのシートとなります。その結果、逆にわかりにくくなってしまったところもあると思います。ご指摘によって、サービス事業評価のように単年度ごとの目標といった形で作り直しも可能です。

委員長 17番の事業進捗評価の「中央図書館と吉祥寺図書館の運営計画と運営形態の検討」ということで、5年間の目標としてプレイスにおいて指定管理者制度の検討を行うということですが、こちらは5年間くらい継続して毎年検討していかない

とわからないということですか。

事務局 計画自体は今年度から掲げられていますが、実際は23年度、また23年度は7月オープンということで期間が短いので、実際は24年度以降からとなります。3年くらいはみないといけないということ。また指定管理者制度の導入ということになりますと、じっくり検討していく必要があると思います。

委員 評価についての質問ですが、「A」は非常に順調とういことで、「B」もまあ課題が具体的になって、「C」の評価がでた場合にはどういうふうにしていくのですか。

事務局 「C」という評価を内部的に出した段階で、目標設定のところを修正していく必要が出てきます。その場合、例えば実施時期などを直すということで、これだけ遅れているので実施時期を2年間遅らせたなどの計画の変更をお知らせすべきであると思います。「C」については当初5年間で設定していたものが当然達成できないといった状況がでてくると。「C」のまま計画を変えないとずっと「C」がついたままになってしまいますので、計画通りに進捗していないということであれば、修正した実行計画案を迅速に設定して、それをまた評価するものと考えています。

委員 修正案をだすことも大変なことですね。

事務局 ただ、その年度末にその前年度の取り組み結果から内部で評価します。遅れたものにつきましては来年度の当初で考えていかなければいけないものですので、その部分を事務局で考えたうえで、翌年度の第一回の委員会の中で事務局からの説明ができるかと思っています。ただ、修正が難しいものについては、こういうふうになれば計画が進捗するのではないかというものがあれば変更点をお示しできると思います。結果から事務局として考えなければならないところもありますので、それは翌年度に反映できるのではないかと思います。

委員 評価に関しての質問ですが、「A」「B」「C」の評価を事務局とするものと、委員会内で評価するものとありますが、評価する時期というのは、次年度にはいつからということですか。

事務局 来年3月31日をもって年度が終了しますので、5月ごろ開催される委員会で、内部評価をいれたかたちでお示しして評価していただくかたちになると思います。

委員 その段階では、進捗のほうは単年度ごとの目標の評価と館内での評価が埋まっていて、もうひとつのほうの図書館評価は埋まっていて、あとは委員会の評価部分が空いているという状態ですか。

事務局 進捗評価はすべて埋まった形になります。事務局で結果を入れ、「A」「B」「C」評価を入れた完成品をお出しします。図書館評価はこちらの目標に対しての結果を入れ、そこから右側のほうは委員会で判断していただきますのでこちらは空いたかたちになります。この2つの資料をお示しして、その事業の進捗具合をここで掲げている目標との関連を見ていただきながら評価をしていただくということになります。

- 委員 その材料としてはこの2つしかないのですか。もっと実際どうなのかなどの資料はありますか。
- 事務局 他にお示しする資料としては事業報告書があります。こちらは例年5月～7月くらいの配布となりますので、第2回の運営委員会の頃となると思いますが、この統計資料を合わせた形で評価をしていただくこととなります。
- 委員長 これは出すのは7月になりますよね。
- 事務局 時期にもよるのですが、統計の入っていないものでしたら5月にお出しできるかもしれません。
- 委員会 そのぐらいの予定として考えてよろしいですか。
- 事務局 製本したものはどうしても先になってしまいます。そういった資料を活用していただいて、評価をしていただくというイメージでおります。
- 委員 イメージとしては、例えば23年度に同じ表がでてきたとしたら、22年度で1番目の「空白地域の調査」が終わっていれば達成したということで評価欄が「◎」になるんですね。
- 事務局 23年度になりますから。結果を評価していただくものと23年度取り組むものと、上下で事前に示していきます。
- 委員 22年度のときには一応はこういう計画ですということができているということですか。つまり基点が2つあるということですね。
- 事務局 はい。
- 委員 ちょっとそこが読みにくいところになりますね。
- 事務局 当初想定しておりました予算と決算のような形にいたしますが、いかがでしょうか。
- 委員 一般の人が見たときにわからないかもしれません。予算と決算のようになればわかりやすいのですが。22年度当初なら予定ですが、年度末に結果ということですね。
- 事務局 上が計画の予定でその下に結果ということで入れられます。そうすれば計画通りに進んでいることもわかりますし、予定は「△」だけど実行は早くできたとか、そういった部分もお示しできると思います。
- 委員 一番はじめの事業進捗評価の表ですが、1枚目は単年度ごとに何をやるか5年後までの目標がほぼ埋まっているのですが、後半になると空が多くなっています。特に68から下の「レファレンスサービスの充実」や22～43の「多様な情報資料の蓄積」のあたりにはかなりの空白が目立ちます。そのあたりは図書館の基本的な機能だと思うのですが、いつどこでどのように入る予定でしょうか。
- 事務局 御指摘の部分を広く記述していくと、表としては判りづらくなると思われましたので、現在実施しているものに関しては細かい記述を省き「◎」だけにしております。詳しくしすぎると「武蔵野市の図書館評価」のように枠を大きくしてのせるしかなく、「レファレンスサービスの充実」などは、表現しにくいいため、こちらは5年間のイメージがわかる記載をしております。

- 委員長 単年度ごとに載せるのは難しいものもあるということですか。
- 事務局 そのとおりです。
- 委員 資料を蓄積することや除籍していくことは今までも行われてきていることであり、これからも行われるということで、それは確かに載せる必要はないかと思います。ただ、レファレンスサービスはもっと変わっていかねばならないと思います。この会議でも話題に出た部分でもありますし。新しいものに手を広げいくことがなければレファレンスサービスは充実しないのではないかと思います。といいますのは、引っ越してきたときにレファレンスカウンターがなく驚いたからです。今後は1階もレファレンスカウンターになると考えてよろしいですか。
- 事務局 中央図書館では3階に「相談カウンター」という形でレファレンスカウンターがありますが、3階だけではなく1階でも2階でも受けております。1月からは1階カウンターの配置が変わりますので、1階のカウンターに案内デスク的な性格を持たせる予定です。70番にあります。今後は自動貸出機を導入し、資料案内などにより力を入れていく方向です。また、サインが非常に見づらいということで、今後対応を考えたいと思います。
- 委員 3階の閲覧席についてですが、5時になったら1回出なければならないシステムはナンセンスだと思う。
- 事務局 それはいろいろなご意見があると思うのですが、「1日中席を独占されて席を少しも使えない」というお客様からのご意見があったので、時間帯の制限を始めました。
- 委員 自分は4時50分に入ったのだが、10分後に出ていただきますと言われました。
- 事務局 申し訳ありません。御案内が不十分でした。
閲覧席は限られたスペースの中でご利用いただくので、多くのお客様にご利用いただくために交代制にしています。1人の方が朝から独占されているケースも見られましたので、図書館内で工夫していく中で入替制をとっています。
- 委員 僕は土日しかわからないのですが、平日でも込んでいるのですか。
- 事務局 月曜日はかなり混みます。また、夏休み期間や受験シーズンは混みます。
- 委員長 雨のふっているときなどは臨機応変に対応されているんですか。
- 事務局 一度利用した方も、お時間をあけていただければ次の時間帯を利用できるようになっています。初めてご利用の方を優先させてくださいというお願いをしています。
- 委員 席を選んでくださいと言われますが、あれは何の意味があるのですか。
- 事務局 お客様のご要望に応えるためです。一人用のキャレルデスクがいいという方、窓際の席がいい方、日当たりのいいところは嫌という方、ご自分の使いたい資料の近くがいい方、パソコンを使いたい方、いろいろいらっしゃるためです。
- 委員 わかりました。ありがとうございます。
- 委員 レファレンスの話に戻ります。私は3階でお世話になっているのですが、レファレンス担当の方はそれと一緒に席の管理などをなさっていたので、レファレンス

についていろいろ調べてくださると、後ろに他の方が並んでしまい申し訳ないです。1階でも3階でも両方できることはありがたいのですが、できればレファレンス専用カウンターを作っていただきたいです。

事務局 限られた職員の数もありますので、その場合は一旦お預かりして後日の回答とさせていただきますことでもあります。必要なことはその場でお伺いし、後日調査ということになりますがお受けしております。席の入替の時間などはとても混み合っていますので、レファレンスの方にはお待ちいただいております。申し訳ありません。

委員 今度自動貸出機が入ればどんどんレファレンスカウンターとしての業務に重点が移るのですから期待しましょう。早く機器を導入して、司書はすぐにサービスゾーンへいってもらおう。1階でも3階でも対応できて、より専門的なことは3階へいってもらおう、と役割分担して機能充実させていけばいい。早く実現してほしい。

事務局 設備のほうは進めていまして、機器は来年1月から設置されます。ただ、利用者も新しい機器に不慣れなところもありますので、こちらもご利用をご案内してどんどん機器のほうへ利用をつなげていきます。そのうえで図書館はレファレンスサービスなどの充実につなげられるような体制をとっていきたいと思います。

委員 各フロアとの連携というものはもっと欲しいと思います。利用者からの問い合わせが多いのは1階2階だと思いますが、そこで即答できるものと時間のかかる3階に資料のあるものなどいろいろあると思います。そのときに1階や2階で受けてそれっきりになるのではなく、3階にきちんと引き継いでいただきたいなと思います。

委員 複数のレファレンスカウンターを持つと、どうしても1階が簡単なものを受ける窓口ということになってしまいます。これからは、これは難しいと思ったものは職員が判断して3階に案内するなど振り分けていかなければならないですね。複数でやる場合、質問表、これは病院でいうカルテと同じですが、これをちゃんと作り、カルテをもとにして何階にいってもらおうとすべきです。1階で処理できることと3階で処理できることの役割分担をしていかなければなりません。1階のカウンターはデパートでいうインフォメーションカウンターの性格で、このレベルが多いと思います。もっと時間のかかるものは3階に専門のところに行ってください、とするといいと思います。そのためにも病院で言うカルテをちゃんと管理して行って責任を持つことが必要です。本当はこれくらい具体的なことを5年間の計画に盛り込んでもいいのではないかな？質問処理表をいつまでにつくるとか、具体的なことが入ってきていいと思います。それがこの60番台に入れることができることなのでぜひ期待したいと思います。

また、例えば69番の講座開催もプレイスを待たずに中央でやり、市民の方の検索能力を上げるといったことはプレイスでなくてもやっていいのではないのでしょうか。

事務局 利用者のPC用の検索講座を考えているのですが、プレイスではサーチバーとい

う形でパソコンがたくさん入るので、複数の方で検索ができるので講座が可能ですが、中央では検索のできる利用者用パソコンが少ないので実施していません。

委員 検索術はPCだけじゃないので、たとえば講座をするだけの勉強会といったPC外の講座を考えてもいいのではないのでしょうか。コンピューターリテラシーだとPC必要だけど、情報リテラシーならいらないので、できればそういうプランをぜひ検討してください。これは早ければ早いほうがいいと思います。

事務局 松山委員からもご指摘いただいたところですが、この空白ところを例えば図書館の中で毎年計画を立てて、実績を評価していく中で来年度やるものを記述していきたいと思います。

委員 13番や15番は実施もついてないようですが、これはあえて空欄になっているのですか。

事務局 例えば13番の「危機管理マニュアルの作成」は、目標である作成が22年度に終わる予定となっておりますので、後年度については記述をしていません。

15番の「人材育成にかかる計画の作成」も、23年度中には出来上がるので、24年度以降は空欄ということになっております。

委員 春の段階では、その計画のプランが出来上がっていて、それは我々も見ることができ、2種類の評価資料以外のものも付いてきて、評価の参考にさせていただけるということですか。

事務局 そうです。この事業の中で出来上がって提供できる資料は成果物としてお出しして、評価の材料の1つとしていただきます。

委員 そういった資料がたくさん集まって、皆さんで評価を決めるというのがいいと思います。お願いします。

委員長 他にいかがでございましょうか。

事務局 事務局から今回新たにお示した「事業評価シート」について補足説明をさせていただきます。こちらは事業ごとの決算額を入れたものです。しかし、決算額は市の議会で承認いただいてから載せられるものなので、費用面も含めご提示できるのは3回目以降の委員会になると思います。御意見があればお願いします。1回目からコスト面を含めた評価も必要ではないかと提案いただいている中では、図書館としても拡大していきたい事業や、今後縮小が必要な事業について、こういったコスト面の記載のある資料ができればと思います。ただ提示できる時期が遅くなってしまうということで、図書館評価と同時に行うことは難しい部分があります。

委員長 5年間の目標に関してご質問はありますか。

委員 この「5年間の目標」の言葉が難しく、理解する気持ちが進まない。5年間の目標で事業の補足をしているのはわかりませんが、もう少し具体的な例えを入れてもらおうと想像しやすいと思います。

事務局 具体的に出せるもの、例えば「団体貸出制度の充実」では「病院・介護施設など」と具体的に入れられます。書けるものについては具体的に入れていますが、難し

いものについては抽象的な表現になってしまっているのもう少し工夫していきたいと思えます。

委員 例えば61番の「本に親しめる環境の整備」とありますが、具体的にどうするのでしょうか。その実施内容で「◎」がついているのですが、どんなことをどう実施するのかが見えてこないのもう少し具体性が欲しい。

事務局 ご意見をいただいた部分も含め、次年度にシートを出す際に23年度では出来るだけ具体的な取り組みについて、準備ができれば空欄の中に埋めていきたいと思えます。また、見せ方につきましても工夫してまいります。

委員 具体的なイメージがわからないとどうしても抽象表現になってしまう。できるだけ具体的なイメージを持ち、5年後を想定すると文章が変わってくると思えます。5年後がどうなるかはっきりしないと文章も抽象表現になってくるので、5年後の姿というのを意識して描いたほうがいいです。そうすればゴールがはっきりし、もっとわかる表現ができると思う。これは難しいことだと思えますが、できるだけイメージをもって進めてはどうでしょうか。

委員 61～65に「本に親しめる環境の整備」とありますが、携帯小説や電撃文庫など、中学校でも買っていますが、中にはいいものがあつたとしても、学校で読むのにふさわしくないということで書棚に出せないものもあります。図書館ではその辺の線引きはどういう計画でしょうか。本なら何でも見せてよいというものではないと思えます。公共図書館の線引きはどのへんでしょうか。学校とは違いますよね。

委員 公共図書館はあらゆるものを左右関係なく提供するという考え方になるので、大学図書館や学校図書館などの教育機関であれば線引きはできるが、公共図書館では難しいですね。

事務局 収集方針で記述していくことにはなりますが、公共図書館としてはどうしても具体的な線引きが書けないということはあります。例示してこれは買わない、という明示できないので、予算の範囲内でとしか書けないです。

委員 数値でのそれぞれの年度の進捗状況が入っていませんが、数値で評価をするのですか。

事務局 「武蔵野市の図書館評価」は、5年間の取り組み目標と、単年度の取り組み目標があります。例えば6の1番「貸出・閲覧サービスの利便性の向上」では目標の中に参考資料として前年度の実績と今年度の目標値を記載し、その取組結果を右の欄に記載し、評価していただくこととなります。数値がないものもありますが、数値化できるものは実践と目標値という形で載せていきたいと思えます。

委員 「武蔵野市の図書館評価(案)」と「図書館基本計画の事業進捗評価(案)」、この2つの表はどういう関係ですか。

事務局 「図書館基本計画の事業進捗評価(案)」は事業ごとの評価ということで、98事業に対して5年間の取り組み状況の目標設定をするシートとなっています。「武蔵野市の図書館評価」は施策単位の評価という関係です。

- 委員 事業進捗評価を見ると、1から4まで「公共施設を利用した図書館機能の充実」一括りですよね。それに対して図書館評価の1はブックポスの設置可能な場所の検討となっていて、事業進捗評価の3や4はどうして入ってこないのですか。これを4項目まとめてブックポスの設置ということですか。
- 事務局 図書館評価には事業の中から図書館として重点的に行う施策を記述しています。やらないということではありません。
- 委員 前日も両者の関係がよくわからなかったのですが、事業進捗評価と図書館評価は別の話ということで、事業進捗評価の中で選んできたものを取り組み目標として掲げて運営委員会の中で評価するということですか。事業進捗評価については運営委員会は関わらないということですか。
- 事務局 図書館評価をするにあたって事務局で評価し、この事業進捗評価を参考にさせていただきながら運営委員会に評価していただくものと考えています。
- 委員 例えば74番あたりの「レファレンスサービスの充実」とありますが、運営委員会での評価の対象となるのは「図書館新システムに対応した新HPを公開し、レファレンス事例集等のコンテンツの内容を刷新」ということで、参考指標としては「HPレファレンス事例集アクセス数」ということになります。事例集へのアクセス件数が増えればレファレンスが充実するのでしょうか。それよりもレファレンスをNDC分類などの主題で分けて、どの分野が増えたといった統計をとるべきかと思います。
- 事務局 参考資料には「レファレンス事例集アクセス数」となっていますが、今まで分類別でレファレンス事例を分けておりませんので、門別などの分類ができるようになれば委員のおっしゃったような統計の取り方ができると思います。まず22年度としてはこちらがお示しできる資料となります。
- 委員 なぜ数あるレファレンスに関する施策の中から図書館評価における取り組み目標に「HP内容の刷新」と「レファレンス事例集のアクセス件数」を選んだのですか。
- 事務局 平成23年1月に新しい図書館システムへの更新を予定しておりまして、それによりHPなども新しくなり、事例集や新聞記事データベースなどレファレンスに関連したコンテンツも新しくなりますので、HPについてはレファレンスの分野では今年度一番力を入れている事業なのでこちらを挙げております。将来的にはレファレンスサービス全体を充実させていく必要があると思いますが、1つずつ達成していくということで考えております。もちろんそれ以外にも新システムでカウンターの配置が変わることにより本の案内など充実すると思います。
- 委員 今年度はシステムの入替に関する指標を運営委員会で評価する、ということですね。私はそれはむしろ手段だと思います。図書館サービス全体の向上を目指すためにシステムを入れ替えるのではないのですか。システムが変わったからHPを刷新して、HPを使ってもらったということではなく、システムが変わったことによりレファレンスだけでなく図書館サービス全体がどう変わったかを評価すべ

きだと私は思います。全体としてどのように改善されるなど、もっと大きな目標について運営委員会は評価すべきだと思います。OPACが使いやすくなることやHPが充実することは手段でしかないので、それを使ってレファレンスの件数が増えた、来館者数が増えた、そういった基本的なところを評価すべきだと思います。

また、「事業進捗評価」と「図書館評価案」の関連性がわからない。図書館評価では目標を施策ごとに1本化して単純化にしていますが、どうしてそうなったかわからない。ブックポストについて同じく、設置数ではなく返却数や利用数の変化などで評価すべきだと思います。

事務局 参考資料の示し方については改めて検討させていただきます。

委員 これを行うことで図書館サービスの充実に繋がるという論理や考え方の道筋が見えればよいが、どうも図書館の都合で選んでいるだけのように思える。それが図書館の利用に反映されなければ意味がないと思います。

委員 図書館評価の目標は毎年変わるわけですから、事業進捗評価の目標の中から今年の目標を選んでいくと、今年はここまで、といった図書館主導の選び方になってしまう気がしますが、いかがでしょうか。

事務局 23年度の評価については、当該年度の段階で取り組み目標として設定することになります。事前に設定するだけでなく、新しく追加して取り組むことを目標に入れることもできます。年度当初の委員会において、どうして選んだかなどの説明いたしますので、その上で1年間の取り組みを評価していただくかたちとなると思います。

委員 委員会としては、事業進捗評価の項目には毎年図書館評価の目標に選ばれるものがあるということを頭に置いておいて、図書館評価の目標だけを見るのではなく、全体の中から今年度は1つがピックアップされるという見方でよろしいですか。また目標として『〇冊』などの数字がありますが、何か根拠があってこの数値目標になっているのですか。

事務局 前年度の予算要求の時点で購入する図書冊数などを想定いたしますので、それに基づき実現できる目標設定をしています。

委員 71番の「レファレンスコンテンツの充実」ですが、予定ではレファレンス事例集についての1つになっているのですが、今多くの公共図書館ではパスファインダーを独自に作っています。例えばビジネス支援や地元の学生さんの就活支援など、事例集だけでなくコンテンツの提供の中にこういったパスファインダーの充実もさせていくべきで、ペーパーはもちろんHPにも掲載し、コンテンツの提供の幅を広げていくべきと思います。

委員 図書館評価において、我々運営委員は何をやるのかについてですが「◎」「○」「△」は1人ひとりが入れるのですか。仮に「○」や「△」しか付かなかったものはどうするのですか。このままでは来年また頑張る、ということで終わってしまう。重点の置き方はどこか、といった委員会で経営判断ができなければ、出てきたも

のに対して評価をつけるだけでは、誰でもよいことになってしまう。この目標を達成するためにはこの事業でいいのかといった判断が運営委員会できなければ意味がない。そこを委員会で検討すべきだと思います。

事務局 今回から新たに事業費なども載ったシートを作りました。これは今後より予算を要求すべきもの、また縮小していくべきものをこちらのシートで図っていくものです。これは、図書館計画全体の評価をする資料と考えております。図書館として重点的に行う事業に関してはこちらで評価していただければと思います。

委員 図書館側の運営方針を運営委員会に示して、重点目標はここで、その目標を達成するためにこの事業をするという説明をしていくべきだと思う。その両者の関係を示した上で評価をすると、その事業が目標に対して効果的であったか、また手段と方法をどのように入れ替えるべきかを委員会で議論できる。これはそうした示し方になっておらず、いいことしか書いていない。やり方を変える、他のものに力を入れる、といった議論が出てこないと運営委員会をやる意味がない。今のままでは委員会での提案がどのように反映されていくのかの道筋が見えない。23年度以降、どのように反映されるかのプロセスが見えてくれば、委員会ももっとやる気がでてくる。

委員 図書館としてどうしたいかが見えてこない。意思が伝わらない。

事務局 今年度は評価をどうすべきか、というシステムをつくることが主となり、図書館はどうしていくかという大きなものを予めお示しすることができませんでした。23年度の冒頭には評価方法も固まり、5年後にむけて図書館は今後どのようにしていくのかという大きな目標をお示しできると思いますので、また1年後にそれに向けての23年度の取組を見てのご意見をいただく、というサイクルができると思います。そのためにまず計画をどう評価していくかを固めていかないと計画自体の評価をできません。また図書館としてどこに重点をおいていくかを委員会で評価していただく方法も検討いきたいと思います。

また、こちらの表だけでは評価もしにくいと思いますので、こちらに肉付けしたものをお示しできるよう評価についても検討していきたいと思います。

委員 5年後のイメージですが、来館する人がどのくらい増えるのか、貸出冊数がどのくらい増えるのか、あるいは借りる本の質がどう変わるか、シニア層・小中学生の利用数はどうなるのか、学校図書館との連携はどうするのか、といった全体的なビジョンがあって、それを実現するために施策があると思う。全体像はどうなるのでしょうか。またインターネットのホームページを充実させれば遠隔閲覧が増えると思う。利用のうち遠隔閲覧などの非来館型の利用はどう増えるのか。こういった全体像があって個別の施策があるのではないのでしょうか。5年後を描いてこの施策を作っているのではないのですか。

事務局 図書館の目指すべき目標として10年後の図書館を設定しています。そのイメージからそれを達成するための施策として98の項目を設定いたしました。

委員 では10年後の図書館はどうなっているのですか。直接来館や非来館、大人と子

どものバランス、その中でシニア層をどうとらえるかなどはどのようなのですか。また図書館には専ら文芸書やベストセラーを借りにくるのか、そうではなく専門書を借りに来るのか、新聞雑誌の利用がどれくらいあるのか、そういった人たちの利用はどう考えるのか。それによって施設の大きさや閲覧席の数が決まってくるので、そういった中・長期的予測に基づいて、図書館のレイアウトや蔵書をどう揃えるのかを考えていくべきものだと思います。それがあつての個別の施策というところになり、それを個別の事業に落とししていくところでしょう。そういう構造になっていて、そして運営委員会にどこの部分の評価をしてもらいたいのか、全体を評価するのは年に4回では難しい。この委員会には、学校の先生や地域で活動している方がいらして、貴重な意見がもらえる場所なのだから、運営委員の方々の経験や知識が反映できることを示して、その意見を聞くほうが生産的な会議になると思います。

事務局 基本計画を策定する中でも現状分析というところで計画の中に地域特性や利用者の分布などをもとに将来的なものを設定した上で、ここでしっかり議論できるものにしていきたい。

委員 施策はそのためにも挙げたものではないのか。

委員 具体的なイメージを持って挑んでいかないといけない。難しいですよ。例えば委員がおっしゃっていた通り、図書館では新聞雑誌の閲覧が多いですが、データとしては出せませんよね。これをデータで出すような工夫というのは、今はICチップで新聞や雑誌を1冊抜いたら1回とカウントできるという時代に入っているので統計取れますよね。そういったものを計画の中に織り込んでいかないとやはり見えない。イメージをしっかりと計画に落とし込んで、また利用度評価や顧客満足度などの視点から評価していかざるを得ないので、その視点で必要なものは予算も掛かるでしょうが落としこんでいかないといけないと思います。10年後にはいろいろなことがありますから。今は館内での貸し出しについてだけで、外から利用数や、館内の本・雑誌の利用もカウントできていない。これではいけないと思う。国会図書館で電子ブックを利用・貸出をするとか試験的に始まっている。そういったところを想定しながらイメージを固めてほしい。そうでないと評価そのものが難しくなる。

委員長 今日はいろんなご意見がありました、事務局いかがでしょうか。

事務局 次回最終回になりますが、たくさんいただいた貴重なご意見を整理してお示ししたいと思います。

委員 最後に評価の「A」「B」「C」についてですが、これは表に記載していただければと思います。実施・検討の欄についてもお願いします。

委員 評価に対する図書館側の姿勢がわからない。一昨年図書館法改正で、図書館での評価の努力義務が法文化された。これはPDCAサイクルのCのチェックで、Aのアクションとして業務改善が行われるような評価でなければ意味がないと思います。評価が採点するためのものであれば、点数ではなくどこをどう改善するか

に関われなければ委員会として意味がない。この図書館をもっと良くするためにはどこをどうしたら来年度もっと良くなるかという議論をしないとPDCAのサイクルにならない。だから運営委員会にどういう意味でこの評価を投げかけているのか知りたいし、何をやればいいのか見えない。1年やってみたときにこのやり方はうまくない、施策はよいが事業内容が不適切、もっとこういう事業をやったほうが良いという発言をすると反映されるのか、あるいは施策そのものが図書館の目標に当てはまっていないというときに議論をして反映されれば運営委員の貢献もわかる。そのためにはこの項目は多すぎると思う。こんなにあつたら我々はどこに関心を持ち、どこを議論していいか見えにくい。幸い問題を絞れそうな委員の方々が集まっているので、そこについて議論をして、例えば学校との連携をとるならばこうしたほうがよいという結論がでて、それを来年度実行したら貸出数が変わったなどの結果があつて、それをまた来年度みなおす。これがPDCAサイクルである。これに運営委員会も関わるという意識があつて、また貢献度みたいなものが見えてこなければ、私はこれを運営委員会に投げる必要はないと思う。それが本来の今回の法改正の趣旨だと思います。違う選択肢を委員会で示せる投げかけかた、仕組みがないと議論できない。ある程度焦点を絞って議論しないと1回2時間年4回では生産的な議論はできない。

委員 「武蔵野市の図書館」の統計項目を充実させる必要がある。今出ている施策の評価の資料として使えるような統計がない。先程、委員がおっしゃったような資料があるといい。

事務局 計画ができた段階で評価の方法を考えております。評価をしやすいような事務報告書の作成に努めたいと思います。

委員 評価と切り離して、武蔵野市の図書館がこういったものであるということがわかる報告書があればいいと思う。市民一人あたり何冊本を借りているとか、登録者一人あたり何冊本をかりているとか、蔵書がどのくらい回転しているかなどがわかればいい。また職員の数はでているが、市の正規職員・非正規職員の数や、司書資格を持っている職員が何人いるとか、そういったことがわからない。他の図書館にいてもこういった配布物はありますので見比べていただいて、いろいろな側面からより充実した報告書になっていただくと、武蔵野市の図書館について、その1冊を読めばわかるようになると思う。

委員 アンケートは傾向などがわかっていいと思うが、他に個別に対面で詳しく聞いたアンケートがあるといいと思う。

事務局 アンケートのとり方として、どうしても来館する人に限られてしまうので、来館してない方に対するアンケートのとり方も考えていくべきと考えています。また、アンケートを含めまして全体的に利用者の声の聞き方を考えていこうと思います。

委員 委員のおっしゃったことは1対1できくということですか。それとも普段利用しない方も含めてアンケートをとっていくということですか。

委員 1対1ですが、その対象は利用者ということは間違いはないのですが、よりじっく

りと聴くということです。

委員 1対1だとコストがかかってしまうので、利用者懇談会という方法をとってはどうか。不満の言い合いになる可能性はありますが、一度利用者が普段どういう意見を持っているのか、また普段利用したくてもできない方はなぜ利用できないのかなどを聞いてみる場合は、1度やってみる意味はあると思う。中には建設的な意見や我々も気づかないような意見をいただけるかもしれない。

委員 武蔵野市ですと市長に意見をいう場合は月1回くらいある。あれの図書館バージョンがあってもいいと思う。

事務局 今回業務見直しの中で新しいシステムが入り図書館側の人員体制の工夫ということもできるようになりまして、それを使いうまく利用者の意見を吸い上げていけるシステムを考えたいと思います。

委員長 いろいろな有益な提案がありましたので、図書館も検討して生かしてほしいと思います。

②その他

次回日程は、2月9日（水）午後6時30分から吉祥寺図書館2階集会室と決まった。